

テンニンソウが林床内の緑化に有効

「公開報告会」で

六月二日(土)、局大会議室において『餓まれる三嶺の森と山々三嶺・剣山地区シカ被害状況と対策「公開報告会」(六)』(主催 三嶺の森をまもるみんなの会 共催 四国森林管理局等)が開催されました。

概況報告に続き、高知大学等から「多年草テンニンソウ」が林床内の緑化に有効」など五課題の報告がありました。

そのうち、技術普及課 山崎企画管(自然再生)からは「平成二四年度四国山地緑の回廊(剣山地区)における二ホンシカ被害対策の概要」として、GPSテレメトリー首輪によるシカ動態調査では、白髪山避難小屋周辺で捕獲した個体が、一月に移動するまでは捕獲地点周辺、移動後は白髪山山頂付近で概ね活動し比較的狭い範囲を利用していたこと等の調査結果、ボランティアとの協同等により実施した防護ネット柵等の設置及び当局のシカ捕獲に係る取り組みについて報告されました。

今後とも、四国四県の自治体、研究機関等が情報を共有し専門的見地から解析等を行い、四国全体としてより効果的かつ計画的なシカ被害対策及び生態系の維持に取り組むことといたします。

研究発表事例にまなぶ

四万十署(昭和48年度~平成8年度まで8報)

課題名「大道マツの天然下種更新」

発表のあらまし

管内の四万十町十和に位置する大道地区は、いわゆる大道マツの産地。大道マツの特徴は、樹幹が通直、樹脂が少ない、木理が通直、色沢が良く高級建築材の趣向に合致。昭和23年から皆伐、スギ、ヒノキの人工林に。昭和48年度(1報)、大道マツの品種維持等の観点から天然下種更新類による施業の取組成果等を8報まで発表。

調査の結果から(8報 平成8年度)

・稚幼樹の生長状況(試験地4箇所平均)

調査年	根本直径	樹高
昭和52年	2.3cm	1.5m
平成8年	15.4cm	11.0m

・稚幼樹の生立状況(試験地4箇所平均)

昭和48年 15,500本/ha
 平成7年 3,100本/ha

今後の展開

同一課題を20有余年にわたり、経過等を発表されたことは、技術開発課題に対する署内担当者等の引き継ぎが功を奏した。今後とも、課題の継続と新たな視点・課題の発掘に期待。

森のキノコです



マツタケ(秋、アカマツなどのマツ林に発生、食用キノコの最高級品)



ブナハリタケ(ブナの枯れ木に群生、笠の裏に無数の針が垂れ下がる)

編集後記

平成25年度「四国森林・林業研究発表会」の日程が決まりつつあります。全署等から発表をお願いします。